

独立行政法人国立文化財機構契約監視委員会（令和6年度第2回）議事概要

開催日及び場所	令和7年6月16日（月） 東京国立博物館平成館3階第2会議室	
出席委員 （敬称略）	<p>○委員長 原田 一敏（ふくやま美術館 館長／東京藝術大学 名誉教授）</p> <p>○委員 西浦 忠輝（特定非営利活動法人文化財保存支援機構 副理事長） 山田 美代子（公認会計士） 溝内 健介（清水法律事務所 弁護士） 久留島 典子（独立行政法人国立文化財機構 監事） 稲垣 正人（独立行政法人国立文化財機構 監事）</p>	
審議対象期間	令和6年10月1日～令和7年3月31日	
個別審査対象案件	230件	○議事
令和6年度（10～3月期）契約（競争性のない随意契約）	69件	<p>（報告事項）</p> <ol style="list-style-type: none"> 令和6年度第1回契約監視委員会の実施結果について 令和6年度契約実績について <p>（協議事項）</p>
令和6年度（10～3月期）契約（一者応札・一者応募）	106件	<ol style="list-style-type: none"> 令和6年度（10～3月期）契約点検（競争性のない随意契約） 令和6年度（10～3月期）契約点検（一者応札・一者応募） 令和6年度（10～3月期）契約点検（その他案件） 令和6年度独立行政法人国立文化財機構調達等合理化計画の自己評価について
令和6年度（10～3月期）契約（その他案件）	55件	<ol style="list-style-type: none"> 令和7年度独立行政法人国立文化財機構調達等合理化計画の策定について

※委員からの意見・質問、それに対する回答及び審議総括については、【別紙1】のとおり

【別紙1】

質 問 ・ 意 見	回 答
<p>(報告事項)</p> <p>1. 令和6年度第1回契約監視委員会の実施結果について</p> <p>特段の質問事項はなし</p> <p>2. 令和6年度契約実績について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調達等合理化計画で定める目標値の達成に向けて、令和6年度は更に数値が改善されたことを評価する。令和7年度は目標期間の最終年度となるため、引き続き目標達成に向けて努めてほしい。 ・ 競争性のない随意契約となった案件について、今後仕様を見直すなどして競争性のある契約に移行できるものはないか、という点からも事後分析を行ってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標の達成に向け、引き続き改善取組に努めたい。 ・ 承知した。
<p>(協議事項)</p> <p>1. 令和6年度(10~3月期)契約(競争性のない随意契約)の点検</p> <p>(1) 該当の契約69件について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現在、物価高騰が社会問題となっているが、機構においてもその影響は受けているか。 ・ 東京国立博物館の寄贈候補作品の梱包及び輸送等作業業務について、契約金額が高額となった要因は何か。 ・ 広告掲出業務が複数あるが、契約金額も高額となっており、過去の委員会でも意見のあったとおり効果の検証を行った上で契約の継続の有無 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 契約金額の高騰などの影響を受けている。 ・ 遠方から多数の寄贈候補作品を数日間にかけて輸送した業務のため、高額となった。 ・ 広告掲出業務の費用対効果を定量的に測定することは困難であるが、アンケートの実施等による効果の測定や新たな手法の模索ができないか、引き

<p>を判断してはどうか。その点の検証状況について教えてほしい。</p> <p>(2) 総括</p> <p>令和 6 年度 (10~3 月期) 契約 (競争性のない随意契約) について、妥当であると判断する。</p> <p>2. 令和 6 年度 (10~3 月期) 契約 (一者応札・一者応募) の点検</p> <p>(1) 該当の契約 106 件について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主的取組である公告期間の 20 日以上確保については、過年度と比較すると非常に努力したことが認められる。引き続き意識して努めてほしい。 ・奈良文化財研究所の Microsoft365 ライセンスの購入一式業務について、契約ライセンスの増加や値上げによりこれまで少額随意契約であった調達を一般競争入札に直前で切り替えたために公告期間が 10 日間となったとのことだが、あらかじめ予想できた要因のように思う。 ・電子入札システムの導入の検討状況はどうか。 ・東京国立博物館のハイヤー供給契約について、仕様に沿った乗務員を確保することが難しいとして一者応札となっている。乗務員の要件等について改めて市場調査などを行い、見直しを検討するべきである。 ・人材確保が難しいとして参加を辞退する業者が 	<p>続き検討したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの本委員会での意見も踏まえ、大幅に改善が図れていると考える。引き続き公告期間の確保に努めたい。 ・意見を受け止め、引き続き余裕を持った調達スケジュールの確保に努めたい。 ・費用対効果が見込めないため導入を見送っている状況である。今後の状況を見極め、必要に応じて検討したい。 ・次回以降、乗務員の要件について緩和することが可能か検討したい。 ・承知した。引き続き準備期間及び公告期間の確保
--	--

<p>大幅に増加したような印象を受ける。より多くの準備期間や公告期間を確保し、業者が人材を確保する時間を設けるなど、機構でもできる限りの工夫をしてほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一者応札・一者応募の改善方策として、公告の掲出形態を増やすことも考えられる。より多くの業者に周知できれば、機構が予見しなかった業者が参加する可能性もあるため、検討してほしい。 <p>(2) 総括 令和 6 年度 (10～3 月期) 契約 (一者応札・一者応募) について、妥当であると判断する。</p> <p>3. 令和 6 年度 (10～3 月期) 契約 (その他案件) の点検</p> <p>(1) 該当の 55 件について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公告期間を長く確保しているものほど複数者の参加がある印象を受ける。公告期間の確保により一者応札・一者応募にも一定の改善が見られているため、業者の都合等も勘案して余裕を持った調達スケジュールを心掛けてほしい。 <p>(2) 総括 令和 6 年度 (10～3 月期) 契約 (その他案件) について、妥当であると判断する。</p> <p>4. 令和 6 年度独立行政法人国立文化財機構調達等合理化計画の自己評価について</p> <p>(1) 自己評価について 特段の質問事項はなし</p>	<p>に努めたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在はウェブサイトでの公告掲出が主になっている。他にも効果的な公告掲出方法がないか、費用も勘案しながら検討したい。 ・承知した。引き続き留意して改善に取り組みたい。
---	--

(2) 総括

令和 6 年度独立行政法人国立文化財機構調達等
合理化計画の自己評価については、妥当である
と判断する。

5. 令和 7 年度独立行政法人国立文化財機構調達
等合理化計画の策定について

(1) 策定について

特段の質問事項はなし

(2) 総括

令和 7 年度独立行政法人国立文化財機構調達等
合理化計画の策定については、妥当であると判
断する。